

Utsunomiya Asobi-basm

受賞者

河崎 篤史/上木 翔太/上杉 謙虎 [株式会社三菱地所設計 都市開発マネジメント部]



審査講評

- 現状分析・実現手法・スケジューリングなどディテールまでバランスよく提案されている。「遊びが都市にあふれる姿」をコンセプトに、「にぎわい」「交通基盤」「環境・防災」の3つの観点によるアーバンデザインの手法が、明確でわかりやすかった。課題解決に向けたまちづくりの提案を丁寧に、競技に対して的確に対応しようとする姿勢を高く評価した。
- 遊び（アソビ）から都市をデザインするのは現代的。地域の住宅・店舗・ワークスペース等の複合空間が未来の息吹を感じる空間となっている。
- 計画される空間の建築形態の形成原理が不明で、周辺街区から浮いて見える印象はあり、その未来的都市空間の是非は意見が分かれるところであるが、北側の現在比較的低密度利用の土地を中心に、川からつながる新たな都市空間を提案し、それを独自の雰囲気でもとめ切っている点が評価される。
- シン・トナリエを北側に寄せて駅前と田川をつなげる方法、操車場跡地のインティメートな空間などは魅力的。自然と調和の取れた都市の姿が描かれており、天候によって変化する空間といった考え方も面白い提案である。

共有経済都市 - うつのみや駅西自治区

受賞者

岡本 幸 / 田口 奈津子 / 所畑 隆洋 / 萩原 克典 / 田端 啓悟 / 佐藤 毅 [株式会社プランテック]

50-1

01 No share No life - うつのみや駅西自治区でくらし -
 自治体の枠を越えて、多様な人々が暮らすことを目指す。スマートな暮らしを実現する。

02 うつのみや駅西自治区は好立地！
 確かな交通と豊かな自然環境の両方を実現できます。

03 共有経済都市は様々な課題が解決可能
 自治体の枠を越えて、多様な人々が暮らすことを目指す。

04 得点は宇都宮全体が共有経済都市へ
 多くの人が参加しています。共有経済都市が広がっています。

05 シェアすることを拡大させるシェアリングハブ(=共有経済都市の拠点)
 駅前とLRT路線が重なりあふ交差点にハブをつくることで、ハブから放射的にシェアリングサービスが拡大していきます。

06 田川とLRTから変えていくシェアリングサービス！
 駅前とLRT路線が重なりあふ交差点にハブをつくることで、シェアリングサービスが広がる。共有経済都市が実現していきます。

07 田川沿岸とLRT路線に形成されるシェアリングスポーク
 LRTと田川沿岸の交差点にハブをつくることで、ハブから放射的にシェアリングサービスが拡大していきます。

50-2

うつのみや駅西自治区 マスタープラン 1/3000

人・モノ・産業が高機能化するシェアリングスポーク

多様な多様なスポークが点在する田川沿岸

歩行者動線に起伏をもたらすグリーンのLRT路線

共有経済都市の拠点となるシェアリングハブ

うつのみや駅西自治区 重要施設配置

審査講評

- 駅西のエリアを空間としてのまとまりだけでなく、ある種のコミュニティとしてのまとまり（自治区）を提案しているところに独創性がある。シェアリング社会は現代的な回答であるが、それを様々なスケールで空間に落とし込んで丁寧に提案しているのも良い。LRT 駅を取り込んだシェアリングハブはややオーバーサイズだが、分散的な提案にあって象徴的建築となっている点を評価した。
- 「移・食・住」をシェアリングサービスする「共有経済都市」という発想・コンセプトがユニーク。お試し移住など宇都宮での生活を気軽に体験できるなど可能性が広がるアイデアである。
- LRT 新駅の L 字型のプランと乗り換えの提案が魅力的だが、宇都宮独自の展開が空間的イメージとしてさらに展開されていると、よりわかりやすいものとなると思われる。
- 表現手法としての「アイコン」が、平面図・断面図とも目立ち、見るものの視線を支配してしまう。主張が伝わる表現の仕方を工夫すれば、もっと説得力のある提案になったと考える。